

SUSAP フィリピン&マルタ

Class Live プログラム



2021年9月28日～8月19日

プログラム概要

【期間】

2021年9月28日～ 8月10日
事前研修：7月15日～ 8月10日
オンライン研修：8月21日～ 9月17日
事後研修：9月29日

【オンライン留学先】

CG社とJTB社が共同で提供している、英語＋グローバルスキルを有機的に組み合わせた「クラスライブ」のプログラムに参加し、オンライン上で海外留学を体験した。

【内容】

本研修ではクラスライブのマンツーマンレッスンとグループプレッスンを通して英語力の向上を図るとともに、マルタ・フィリピンの二カ国と交流し各国の抱える水問題について考えた。参加者はフィリピン・マルタについて事前に学習する授業ののち各国の学生と実際に現地の学生が感じていることや解決策について話した。SDGsの水問題について考えることを目的に異国の文化や日本の問題についても考えた。

【Class Live の内容】

クラスライブでは英語力の向上を目的にオンライン上でマンツーマンレッスンとグループプレッスンを進めていった。プログラム開始時に一コマ25分のマンツーマンと、50分のグループのチケットがそれぞれ34

コマ分配布され各生徒の好きな時間に受講することができた。個人レッスンの授業内容は個人の実力に合わせており、グループレッスンは日本内外の生徒と交流しながら英語を学ぶことができた。

授業に使われる資料も全て英語を使用していたためスピーキングとリスニングだけではなく、リーディングや文法のスキルも学ぶことができる。



参加者プロフィール

【グループ A】

矢野裕子 教育学部 4年
コロナ禍での大学最後の夏に何ができるかを考えたときに、オンラインでの英語学習は興味深いと思い、英語力向上を目指して参加した。

大淵彩永 芸術地域デザイン学部 3年
英語で環境問題を学んでみたいと思い参加した。

城島叶愛 理工学部理工学科 1年
コロナ禍でも何かしたいという思いがきっかけで、語学力を上げる、世界の問題を知って視野を広げることを目標に参加を決めた。

山下ひなた 農学部生物資源科学科 1年
将来海外留学に参加したいと思っていて、環境問題にも興味があるので、自分を成長させるとてもいい機会ではないかと思い参加を決めた。

【グループ B】

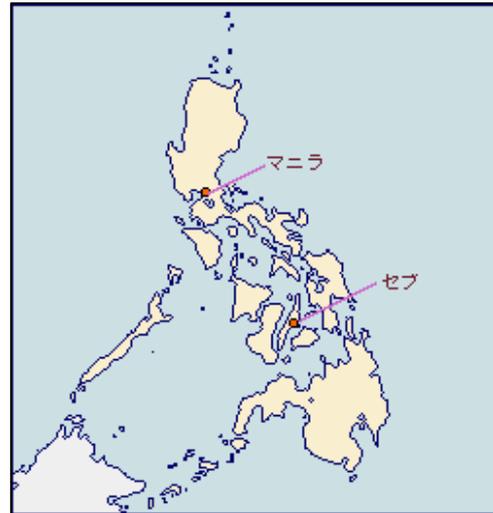
塚本マーク達美 地域デザイン学部 1年
コロナ禍でもなければ自分はオンライン留学を経験することもないだろうと思い参加を決意しました。

福永梨華 経済学部経済学科 3年
以前から留学に興味がありましたが、現在の状況ではなかなか難しいためこのプログラムに参加しようと思いました。

川邊遊 教育学部 1年
夏休みに何かをやらなければいけないと言う気持ちと英語力をつけることは大事だと感じていたので参加しました。英語力を高めるだけでなく、世界の水問題について考え、自分の行動を顧みる機会になり、とても有意義で楽しい研修でした！

梶原みなも 農学部生物資源科学科 1年
このプログラムには英語のスピーキング力を高めるために参加しました。
日本だけではなく他国の水問題についても学べました。英語に対するモチベーションも上がるいい研修でした。

フィリピンの概要・文化



【基本情報】

1 面積

229,404 平方キロメートル(日本の約 8 割)
7,109 の島々がある

2 人口

約 1 億 98 万人(2015 年 国勢調査)

3 首都

マニラ(首都圏人口約 1,288 万人)

4 民族

マレー系が主体。他に中国系、スペイン系及び少数民族がいる

5 言語

国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語および英語。80 前後の言語がある

6 宗教

ASEAN 唯一のキリスト教国。国民の 83% がカトリック、その他のキリスト教が 10%、イスラム教は 5%(ミンダナオではイスラム教徒が人口の 2 割以上)

7 平均寿命

男性 66.2 歳、女性 72.6 歳 (2018 WHO)

8 識字率

98.2% (2015 年 世界銀行)

【日本との関係】

関係は良好で輸出入ともに盛んに行われている。また、日本はフィリピンにとって最大の貿易相手国であると同時に最大の投資国でもある。2008 年には日・フィリピン経済連携協定が発効。両国間での貿易や投資の円滑化、人の移動やビジネスの環境が整えられた。日本ではフィリピンからの看護師や介護副福祉士の受け入れを実施している

【文化】

フィリピーノホスピタリティと呼ばれる言葉が存在するように親切で陽気な性格をしている人が多いという国民性を持っている。国内での貧富の差が大きい国の一つとされ、地域によって環境が大きく違ってくるという特徴も持っている。そのため、水問題のうち洪水による被害に差が生まれたり飲水が一部不足したりする地域もあるようだった。Class Live の講師にもフィリピン人が多くその明るい人となりを感じられた。

フィリピン PBL

【全体的な流れ】

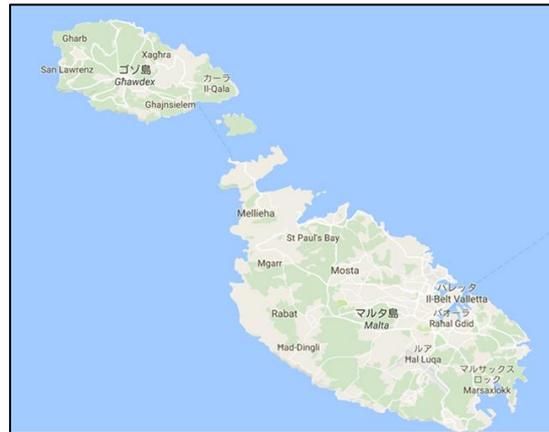
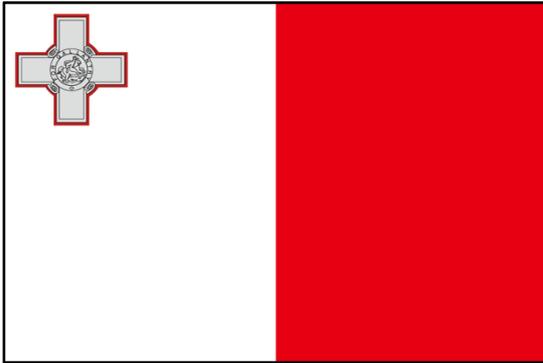
- 一日目 フィリピンの抱える水問題を知る
- 二日目 フィリピンの学生へインタビュー
- 三日目 インタビューのフィードバック

【詳細】

二日目の zoom で行われたインタビューに向けフィリピンの抱える水問題をフィリピン在住のクラスライブの講師とともに学んだ。主な問題としては、急速な発展と人口増加によって河川や海が汚染されているという問題からくる漁獲量が減少しているというようなものや飲料水や生活用水が一部不足しているというもの、台風による洪水などが挙げられていた。現地の学生とのインタビューでは、事前に学習していた対策としてのゴミ拾いなどがどの程度の頻度で行われているのか、実際に参加をした感想などを聞くほか、各人がおもう対策として有効になり得ることや、お互いに対しての疑問について話し合った。その後のフィードバックではインタビューの内容を整理考察し今後どのようにするべきだと思ふかなどについて話し合った。



マルタの概要・文化



【基本情報】

1 面積

316 平方キロメートル(東京 23 区の約半分)
マルタ・ゴゾ・コミノの三島で構成される

2 人口

約 51 万人(2019 年 外務省データ)

3 首都

バレッタ(首都圏人口約 6800 人)

4 民族

地中海系民族を中心にノルマン、アラブ、スペイン系などの混血が進んだ民族

5 言語

国語はマルタ語、公用語はマルタ語・英語。
1934 年まで公用語であったイタリア語の話者も多い。

6 宗教

宗教の信仰人数の 98%がカトリック教会というキリスト教国。騎士の文化やキリスト教などの文化の混ざった教会が見られる

7 平均寿命

男女計 82.6 歳 (2020 年 世界銀行)

8 識字率

94.5% (2018 年 世界銀行)

【日本との関係】

関係は良好。マルタが独立した直後の 1965 年に両国間で正式な外交関係を樹立して以来、日本からは手塚治虫展を開くなど文化に対して親交的な姿勢が見られる。貿易面では日本に対してマグロなど海産品の輸出が多く見られる。大使館に関しては在イタリア大使が兼任しているという。

【文化】

マルタは要塞としての歴史などが色濃く残った街並みなどからもわかるように様々な国から影響を受けた独特な文化を持っている。また、歴史的な街並みだけではなく夏の長い温暖な気候ゆえヨーロッパのリゾート地とされており初めて訪れる人にもホスピタリティーあふれる国とされている。

また、マルタは EU 最小の加盟国としてヨーロッパからの文化が多く見られる。しかし、歴史を見ると、マルタ騎士団の歴史やオスマン帝国時代の文化など様々な文化が混在している。日本では馴染みのないシエスタなどもそのうちの一つだろう。

マルタ PBL

【全体的な流れ】

- 一日目 フィリピンの抱える水問題を知る
- 二日目 フィリピンの学生へインタビュー
- 三日目 インタビューのフィードバック



【詳細】

二日目に Zoom で行われたインタビューに向けてマルタ在住の講師からマルタの抱える水問題について学ぶことから始まった。主な問題としてはマルタに水源がないことから水不足が起りやすいというような内容だった。その後のマルタの参加者とのインタビューでは実際にどのような問題を実感しているか、現地の参加者が考える解決策、お互いに質問をするなどして交流した。その後はフィードバックとしてインタビューの内容を整理し、日本との違いや共通点、今後我々がどうすべきかなどを考えた。

A グループ

「コロナ禍ならではの学び方」

教育学部4年 矢野 裕子

～はじめに～

私はマルタ&フィリピン Class Live プログラムに参加し、充実した夏休みを過ごすことができました。本報告書では、今回のSUSAP で私が感じたことついて2つのテーマに分けて述べていきます。

①英語で話すということ

コロナが流行して他国の人と交流が減り、英語で話す機会も減っていました。話す機会が減るといつの間にか自分の英語力は衰えており、オンライン英会話が始めた当初は言いたいことが伝えられず、もどかしくなることがよくありました。少しでも先生に伝えられるように、マンツーマンレッスンの前には、その授業の予習をし、テーマに関連する単語を事前にチェックしたり、自分の意見をまとめたりするように改善しました。本当は事前の準備などせずとも話したかったのですが、この1か月は自分の実力を受け止め、基本的な単語や文法などを中心に直視するという英語学習に励みました。すると回を重ねるごとに少しずつすら話せるようになってきたり、先生と両国の文化の違いについてディスカッションしたりできるようになりました。英語で話すためには単語力と日々の積み重ねが大切と改めて実感した1か月でした。

英語で話すことによって他国の人と交流することが可能となります。研修中に私はフィリピン、マルタ、ベトナム、チリ、ロシアの方と交流する機会がありました。彼ら

と交流する中で、これまで自分が持っていた視点とは違う視点から物事を見ていることを知りました。また、日本にいて日本語で話して生活している時には知り得ない世界の実態について聞くこともできました。その中で私が一番驚いたことは、フィリピンの貧困地ではゴミ山の中から食べ残しを探し、それを使って調理をし、その料理を販売することが当たり前ということです。生きるためにはそうしないと生活ができないと言っていました。世界の実態についてより詳しく知る為にも英語で話すということがいかに重要であるかを感じるきっかけとなりました。

②世界の水事情と環境問題

日本で生活していると水に関する問題を感じることはなかなかありませんが、他国を訪れたときは水問題がいつもついてきます。水道水を飲むことができないので、ペットボトルの水を買う、水不足の為シャワーの時間を制限されている、突然の豪雨に見舞われる、これらはどれも私が他国で経験した水問題です。これまで環境問題、特に水について考えたことはありませんでしたが、興味深い分野だったので、今回PBLを通して学習することにしました。

フィリピンでは水質汚濁や自然災害、マルタでは水不足が深刻な問題と知りました。また、日本もこのまま水を使いすぎていると水不足になりかねないということ、自然災害という水問題を抱えていると知りました。3か国とも海に囲まれた島国という共通点がありますが、それぞれ気候や地形、文化や歴史が異なる為、水問題そしてその原因、政府の解決策は違います。

世界の水事情それにまつわる環境問題について考えることで自分の生活の仕方を見直すいい機会になりました。PBLの最後

のプレゼンに向けて自らできる解決策を考えました。ちょっとした心がけが世界の水問題の解決につながると思います。また、水問題に興味を持つことが一番の解決への近道だと思います。今回学んだことを自分の中だけにとどめるのではなく、周りに伝え自分の回りから少しずつでも改善できるといいなと思いました。また、フィリピン・マルタ以外の国の水問題、水以外の環境問題についても興味を湧いたので機会があれば学習したいと思います。

～まとめ～

このプログラムに参加したことによって、英会話や異文化交流、世界の問題を考えることが楽しい！と改めて感じることができました。コロナ禍で諦めかけていた国際交流をオンラインという形でチャレンジできる環境を整えてくださった国際課の方々、石松先生、GG社のスタッフへ感謝申し上げます。私は今年で佐賀大学を卒業しますが、卒業までの半年間そして、卒業後も英語学習に励み、コロナが終息した際には、ここでの学びや経験を活かし、留学やワーキングホリデー海外でのお仕事にチャレンジしたいと思います。

「研修を終えて」

芸術地域デザイン学部 2年 大淵彩永

今回プログラムに参加した一番の目的は、毎日長時間英語を話す機会を得たいと思ったからです。今までの英語学習において、対面式の英会話教室は、料金の点から頻繁には通うことができませんでした。またオンライン英会話は、予約ができないため受講を怠ってしまうことが何度もありました。そのため、夏休みの期間に毎日英語を話すことを習慣にすることで、成果を得られるのではないかと思います参加を決めました。Class Live の授業では、マンツーマンレッスン、グループレッソンのどちらも、先生が生徒に話すタイミングを与えてくださったので話しやすく、最終的には積極的に会話に参加することができるようになりました。グループレッソンでは文法について習うのですが、英語で英語の文法について学ぶのは初めてだったので、新鮮でした。もちろん日本語で習うより難しく感じることもありましたが、新しい経験をすることができました。

プログラムに参加したもう一つの目的は、英語で何かを学んでみたいと思ったからです。今回のPBLでは、フィリピンとマルタの水問題について学びました。フィリピンは、急速な人口増加や工業化、都市化によってインフラの整備が追いつかず、水質汚染や水不足が発生しているようです。また、台風や洪水などの自然災害も多発しており、毎年大きな被害を受けています。フィリピンの水質汚染は非常に深刻で、特に貧困層は安全な水を手に入れるのが難しいようです。政府は、改善のために海岸の清掃活動や水の配給などの対策を行っています。また、

マルタには、山や川、湖などの水源がありません。その上、夏が長く降水量が少ないです。彼らは海水や地下水を利用して生活用水としていますが、水不足はマルタで最も深刻な問題の一つになっています。マルタは農業が盛んで、農業に多くの水を使います。そのため政府は、農業用に再生水の利用を推奨していますが、農作物への化学物質の悪影響への懸念から、利用を望まない農家も多いようです。政府は他にも、海水を生活用水に変えるためのシステムの構築や、地下水の汲み上げなどを行い、安全な水を供給しています。

これらの現実を、受講するまでは知りませんでした。水問題は、日本人にとって危機感のある問題ではないように感じます。ですが世界を見ると、水問題を生活に直結する問題として深刻に考えている人々が多くいることがわかりました。また、日本は食料を輸入に頼っている国なので、日本だけでなく外国の水問題も人ごとではありません。英語を勉強すると、それまで触れてこなかった話題を知るための入り口が広がると思えます。これからも重要な情報を得ることができるように、英語を勉強していきたいです。

「留学ってやっぱりいいね！」

理工学部 理工学科 1年 城島 叶愛

受験を終えて、英語が嫌いになっていることに気がついた。それでも異文化＝ワクワクするものという先入観が頭に染み付いている私は研修に申し込んだ。始まってすぐはもちろん、こんなに英語が出てこなくなっているなんて…と自分に失望した。しかし、この英語を話す不自由さこそが私を変えた。

私がこの研修を通しての目標として立てたものは2つ。1つ目は直感を信じること。私は中高一貫校に通っていた為6年間同じ友達の中で過ごしてきた、友達の作り方を忘れていた。久しぶりに知らない人しかいない環境で過ごした前期は、頭をフル回転させて、よく思われたいの一心で会話をしていた為、猫を被りまくり、上手なキャッチボールができなくなっていた。今、これと言うのはどうかな？嫌な子って思われそうかな？などと、言うか言わないかを天秤にかけて会話をしていた私だが、母国語ではない英語を話すとその余裕なくなり、パツと出てきたものを直感で発するようになっていた。レッスンを受けていくにつれて失敗してもいいや。とにかく何か言おう。という考えに変わっていったのだ。それは、Class liveの先生方は頓珍漢なことを言っても受け止めてくれたからだと思う。直感で話しても大丈夫じゃないか！と自信がついた。むしろその方が素の私が出せて、自分も相手もイキイキする。そうだ、これが英語の楽しさだ。人と会話する楽しさだ。全く私を知らない相手でも、こんなにイキイキ話したら楽しい！！日本語より不自由にしか使え

ないはずなのに気持ちは自由になる。そんな英語がやっぱり好きだ。

2つ目の目標は、日本の良いところを28(にっぽん)個探すこと。まずは、28個挙げてみよう。

- 1.水道水が飲める
 - 2.技術が発展している
 - 3.インフラ整備が整っている
 - 4.トイレが綺麗
 - 5.新鮮な生魚が食べられる
 - 6.お米が美味しい
 - 7.医療制度の充実
 - 8.自然豊か
 - 9.四季をたのしめる
 - 10.治安が良い
 - 11.街が綺麗
 - 12.観光地が多い
 - 13.自動販売機が多い(世界一)
 - 14.バスや電車が時間通りに来る
 - 15.長生きの人が多
 - 16.知名度が高い
 - 17.歴史を感じる事が出来る文化
 - 18.伝統的な考えを継承している人が多い
 - 19.マナーを守る
 - 20.礼儀正しい
 21. 誠実(Class liveの先生に Japanese are honest!と言われた)
 - 22.繊細
 - 23.温厚
 - 24.慎重
 - 25.風情を楽しむ心
 - 26.年上を敬う心
 - 27.おもてなしの心
 - 28.安心して暮らせる
- オンライン留学の良いところは、自国にしながら外国の情報を得ることが出来ることだ。生活しているのは自国だから、交流している国との比較がしやすい。どっちの国が

良いどっちの国が悪いということではなく、心に留めておきたい知識として、特にこの研修で感じた日本の良いところは、安心して暮らせるということだ。トイレはどこに行っても綺麗、飲んでも安全な水が使える、水不足の心配をせずに水を使ってしまうなど、本当は当たり前のことではなかったのだと気がついた。フィリピンでもマルタでも水道水は飲めないと学んだ。そして、水は農業に使われることが最も多いため、水がなければ生計を立てることの出来ない人も出てくる。水資源が少なく、水が不足しているマルタでは地下水を巡って争いが起きる。そのようなことは現在の日本では考えられない。でも水がなければ生計を立てられなくなるという意味でも、生活用水が不足しているという意味でも、水は私たちの生活に必要な不可欠なものだ。交流した学生の方が放った、Water is life.という言葉が忘れられない。日本のインフラ整備や、技術が優れていること、水資源の豊富さ、安心して水を使うことが出来ることに感謝しなければならなかったと感じた。そして、普段の生活でも、今ある水資源を綺麗な状態で次の世代に繋げられるように生活することを心掛けようと思った。

そしてコロナ禍でもこのような学びの機会を与えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずこれからの学びに活かしていきたい。

「今年も気持ちの良い風が吹く季節が来た。今晚は、満月だな。」と、安心して暮らせる。そんな自国を知ること、より自国を愛することができた。

「オンライン留学を通して」

農学部 生物資源科学科 山下ひなた

数ヶ月前、SUSUPでフィリピン&マルタへのオンライン留学にチャレンジしようと決めて、本当に良かったと実感しています。私がこのオンライン留学プログラムに参加を決めた理由は、主に2つありました。1つ目は、将来途上国の課題解決に関わる仕事をしたいと考えている私にとって英語力は必須であり、自分の英語力を磨いたり異文化に触れたりするには絶好のチャンスとなる留学に、いつか参加したいと以前から考えていたからです。今はコロナ禍という状況もあり、実際に海外に行つて学ぶことは出来ませんが、オンラインという形でも何か得られる物があるのではないかと思います。実際、オンラインだったからこそ、英語力に自信のない私にとっては家に居ながら沢山英語に触れるとても良い機会と成りましたし、英語漬けの日々を最高に楽しみながら学び、吸収することが出来ました。そして何より、英語で会話をする事への抵抗が無くなり、上手に話すことはもちろんですが、伝えようとする気持ちや自分が持っている力を何処まで最大限に引き出せるかが最も重要だと感じる事が出来ました。これらの経験から、いつか留学に参加したいという気持ちも更に膨らみ、その時の為にこれまで以上に英語学習に励もうと決意しました。

2つ目は、同じ島国であるフィリピン・マルタ・日本の3カ国で、それぞれが抱える水問題について議論するというトピックを見た時、環境問題についての認識やそれぞれが持つ水問題の相違点等を知りたいと感じ

たからです。私の将来の夢は飢餓を無くすことであり、持続可能な開発目標に掲げられる大きな課題として、環境問題や水資源の利用等が挙げられるように、繋がる部分が多いのではないかと考えました。同じ島国であってもそれぞれの国が抱える問題は異なる部分も多く、マルタでは水資源が足りなかったり、フィリピンでは水質汚濁により様々な問題が懸念されていたりと、日本で生活するにあたり当たり前と感じてした事をありがたい事だと感じるとともに、様々な画期的な政策が世界には存在していて、これらを国家間でも共有し上手く活用していく事が有効なのでは無いかと感じました。

これらのプログラムを通して、水資源を大切にしていこうと考える気持ちや水に対する意識そのものが大きくなりました。世界の共通課題として近年特に問題視されている地球温暖化もまた、3カ国全ての水問題に影響を及ぼしており、いろいろな視点・学問からのアプローチにより、世界中が一体となって解決すべき問題だと再認識する事ができ、小さな事でも自分に出来る事には積極的に取り組んで行こうと思いました。

また、留学を考える者としても、オンラインであっても海外の方と実際にディスカッション出来るというチャンスをととても魅力的に感じました。フィリピンやマルタの学生や先生方と、毎日一緒に英語を勉強したり、お互いの文化に触れたり、それぞれの水問題について学んだり、とても貴重で刺激ある一ヶ月を送ることができました。英語のスキルアップはもちろん、沢山の出会いや英語学習へのモチベーションの向上等さまざまな機会を与えて下さった沢山の方々に感謝し、これからの英語学習に更に熱を持って取り組んでいこうと思います。

B グループ

「研修を通して考えたこと」

教育学部 1 年 川邊遊

今回のプログラムに参加したきっかけは、SUSAP の説明会で話を聞いて、夏休みに何かをしないとイケないという思いと、英語力を少しでも伸ばすためにとりあえずやってみようという気持ちからだった。英語は嫌いではなく社会問題について考えることは好きなほうではあったが、今まで何年も英語を学んできたのに身につけている実感がなく英語でコミュニケーションをとるといふことに大きな抵抗感があった。

まずは、英語レッスンについて。もちろん英語で話すほかなかったが、自分の伝えたい意見や考えを英語で満足に伝えることができるほどの力がなく落胆したのは言うまでもない。しかし、自分の知っている単語や文法を用いて何とか伝えようとし続けることで、先生と私のコミュニケーションは成り立ち、会話をするのが楽しいと感ずることができるようになった。グループレッスンも同様に、自分の意見を積極的に伝えようとする、そして他の学生の意見にも耳を傾けることで、グループとしてのコミュニケーションをとることができたと感じた。いずれにしてもこれまでは英語コミュニケーションに感じていた抵抗感は、ほとんどなくなったと感じている。ただ、英語で自分の意見や考えを十分に相手に伝えられるようになるには、もっと単語力をつけ

英会話に慣れる必要があると考える。今回の英会話レッスンを通して、今まで英語を話すことが苦手と感じていたのは、単に英語を話す機会がなかったために自分は話せないと思い込んでいたのではないかと思う。今回をきっかけに、英語を話す機会を増やしていくことができれば更なる上達へつながるだろう。

続いてマルタ・フィリピンの水問題についての PBL では、事前の調査とオーバービュー、そして現地学生とのディスカッションを通して、各国の抱える問題について知ると共に日本の課題についても考える良い機会になった。マルタ・フィリピン・日本はいずれも島国であるが水に関する問題はそれぞれ異なり、その原因も現状も私が想像していた以上だった。

マルタはそもそも山、川、湖がなく水源の確保が難しいため、水が大変貴重で国の主要産業である農業用水を確保するのに様々な技術を用いている。マルタの水を維持するためには、海水の淡水化や再生水利用などの技術発展に世界が協力していくべきだと感じた。

フィリピンは人口増加、都市化、工業化といった国の成長に伴い、ごみの流出などによって水質汚染が起こってしまった。インフラの整備が整いきれてないこともあり、きれいな水が十分に得られていない。国の対策としても河川の清掃などが行われているが、できる限り汚染をなくし、繰り返さないことが重要になると考える。そして、フィリピンのさらなる成長とともに環境保全を両立させていくことができればよいのではないか。

以上 2 カ国を調べてきたが、活動を通して日本がいかにかきれいな水に恵まれているかを感じ感謝して大切にしていかなければ

けないと認識させられた。それでもまだ日本にも、海洋汚染や温暖化による生態系の変化など抱えている水問題があるので、その解決をしていく必要がある。その中で私たちにできることは、日々の節水やごみを減らすことなど簡単なことだ。この活動を通して知れたことを無駄にすることなく、これからのグローバル社会を生きていこうと思う。

「この研修を通して学んだこと」

経済学部 経済学科 3年福永梨華

私は以前から他国の生活に興味があったため、留学にも興味があったのですが、最近ではコロナウイルスが流行していて、留学することもなかなか難しいため、このプログラムに参加しました。

また、私は人前で自分の考えを話すことが苦手なのですが、この機会を利用して人前で話す練習も同時に行おうと思ったことも参加したきっかけです。

こんな感じでこのプログラムに参加したのですが、参加して学んだことは考えていた以上にとっても多かったです。その内容は大きくわけて2つです。

1つ目は、日本の文化についてです。

私たちは日本に住んでいるため、当然日本についてはよく知っていると思っていたのですが、文化について問われるとわからない事が多くありました。

その中でも特に知らなかったのが、日本の伝統芸能についてです。

日本の伝統芸能の代表ともいえる「能」は、ユネスコの無形文化遺産にも指定されて海外の人々からも大きな注目を集めています。しかし、私は能を1度も観賞したことがありません。

もっと言うと、能がどのような内容で、どのような目的で行われているかも全く知りませんでした。

世界にも広まっている日本の文化を日本人である私が知らないことはとても恥ずかしく、また、勿体ないことであると思いました。

海外の文化を知る前に、日本の文化を知り、

楽しもうと思います。

知識として学ぶだけではもったいないので、まずは伝統芸能や、日本の絵画など、身近にあるものを生で観てみたいです。

次に、2つ目は海外の水問題についてです。このプログラムではマルタとフィリピンの水問題について考えました。

それぞれマルタは水不足、フィリピンは水質汚染という水問題を抱えていました。

日本では、マルタのように水不足になることはめったになく、水道をひねるといつでもきれいな水が出てきます。

そのため私は水を無駄にしていると考えているわけでは全くないのですが、よく考えると水を無駄にする行動をしていたと思います。

身近な問題でなければ、考えて行動することができないままでいると、世界の問題は解決することができません。

一人一人が問題を解決するために行動することで初めて変化を起こせると私は考えます。そこでまず私たちがすべきなのは、世界の問題に興味を持ち正しく知ることだと思いました。

私も、このプログラムに参加して世界の水問題について考えるようになりましたが、参加する前は、意識して行動することはありませんでした。

しかし今では水を使うとき世界の水問題について考えるようになりました。

このことからやはり知るといことは問題を解決するための第一歩であると考えます。

今回このプログラムに参加して、世界の問題や、日本の文化について興味を持ったのはもちろんですが、同時に人と意見交換をし、話し合うことの面白さも学ぶことがで

きました。

同じことを学んでも考えることは様々なので、意見を交換し話し合うことも問題を解決する上でとても重要だと思いました。

このように私はこのプログラムで多くのことを学びました。

自ら行動を起こせば得られる情報や知識も増えると思うので、これからも積極的に新しいことに挑戦していこうと思います。

「英語と水に対する意識」

農学部生物資源科学科 1年梶原みなも

この研修に参加した目的は、英語のスピーキング力を伸ばすことでした。しかし、実際に参加すると、スピーキング力向上よりもっと多くのことを、学ぶことができました。具体的に、プログラム内で学んだことを順を追って述べていきたいと思います。事前学習では、日本について学ぶ講義を受けました。その中で、日本の歴史に関する授業が特に面白く、約1400年続く王族は、日本だけだということが印象に残りました。この授業を通して、歴史について再度学習したくなりました。英会話は、マンツーマンと、グループレッスンがあり、初めは英語をしゃべるのに抵抗があったため、マンツーマンから挑戦しました。講師の方は、思ったより気さくに話してくださり、グループレッスンと交互に受けていくうちに英語を話すことにあまり抵抗を感じなくなっていました。また、完璧な英語を話そうとするのではなく、意見を伝えたい意欲が相手に伝われば、理解してもらえることが分かりました。講師の方の中に、日本に対する興味がある方がいらっしゃり、日本の伝統行事や、アニメについて聞かれることがありました。その際にうまく答えられないことがあり、自分の日本に対する知識の欠如を痛感しました。一番印象に残ったのは、「アンパンマンはなぜ国民的アニメになったのか」という質問でした。あとで調べてみると、顔が丸くて親しみやすく、ストーリーがシンプルで、子供が言いやすい名前だからだと分かりました。わたしたちの世代では、アンパンマンは幼少期に親に見せてもらうもの、という

暗黙のルールのようなものがあったため、不思議に思うことがありませんでした。この質問をされて初めて、そのことに気づくことができ、日本の文化を知るとてもいい機会でした。フィリピンとマルタと水問題について考える授業では、二カ国の文化や、地理、水問題についてよく知ることができました。実際に2カ国の学生さんと話す機会があり、ネットだけでは知りえない、学生さんから見た現状を話してくださいました。時折、日本の水問題について聞かれることがありましたが、思い当たる問題があまり頭に出てこず、私の水問題に対する意識の低さを感じました。また、両国とも英語を日常的に使うため、自分の意見を述べる際に流暢な英語で発言しており、年が近いだけあって英語力のギャップを感じました。この出来事が、今後の英語学習のモチベーションになりました。この研修を振り返って、事前事後学習や、英会話、海外の学生さんとのオンライン交流など、取り組むことがとても多かったです。その分、経験と、水問題に対する関心、充実した英語ライフを夏季休暇中に送ることができたので、参加して良かったです。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。

「多様な水問題を知って」

芸術地域デザイン学部1年 塚本マーク達美

今回のプログラムを通してマルタやフィリピンなどこれまで接点もなかった国のことを知ることができ、とても良い経験になりました。オンラインでの留学ということでしたが、Class Liveの充実した英語学習のサポートやフィリピンとマルタに関するわかりやすい授業のおかげで楽しい留学を経験することができました。

私がこのプログラムに参加したいと思った理由としては大学在学中に海外留学に行きたいと思っていたということと、コロナ禍でもなければ自分がこういった体験をすることもないと思ったからです。また、プログラムを通して学んだ水問題にも関心があったのでフィリピンやマルタのかかえる問題や日本も他人事ではないということなど興味深い内容が多く全体を通してたくなるプログラムでした。オンライン留学でしたので個人レッスンやグループレッスンは自分の都合の良い時間に参加することができ、時間を有効に使いながら英語を学習できたように思います。しかし、水問題に関して学ぶPBLでは、オンライン故のラグやグループでの話辛さもあり、問題を具体的に知るために実際に現地に行きたいと思うところもありました。

率直な感想を言えば英語学習にはとても役に立つのですが、水問題などについて現地の人と意見交換をしたり話したりするのはオンラインですとまだ難しい時もあるように感じました。

ですが内容に関してはためになる部分が多かったです。マルタなどに関しては前提

として知っていることが少なく、山や川などの水源がない国として日本から見ると非常に厳しい節水をしながらか過しているということなど知りもしませんでしたし、フィリピンに関しても世界でも上位に来る水質環境の悪さを抱えているということを知りませんでした。しかし、今回のプログラムではそこにさらに踏み込み、なぜ深刻な水質問題が発生しているのか、マルタではどのようにして飲水を準備しているのかなどを学ぶことができました。その内容の中にはプラスチックゴミに関する問題や、節水の重要性など日本においてはあまり深刻に取り上げられていないものが多く、他の二カ国に比べ問題意識が低いように思いました。水道水が直接飲めることや、お風呂などに入ろうと思ったら入れる環境にすることが恵まれたことだと感じると同時に、今のまま水を無駄に使いすぎたりすると将来日本も同じような状態になり得ると思うと恐ろしいところではありました。

無論、これらの問題は個人が気にかけるのも非常に大切ですが社会として、国を超え世界で取り組んでいかないといけない問題でもあります。いつかこの問題を解決するためにも日本での問題意識を高めるとともに、今回の留学を通して身につけることのできた英語スキルを利用し、外国とも協力しながらこういった社会の抱える問題に対応してゆくことのできる人間になりたいと強く思った次第です。

最後になりますが、今回の留学を通してClass Liveで英語を伸ばせたことや水問題について現地の方とお話できたことは非常に貴重な経験となりました。今後もこの経験を忘れず、機会があればフィリピンとマルタに実際に訪れたいと思います。